看板、ラベル…売り場にアイデア

崇城大生 デザインいいね！

合志市の物産施設

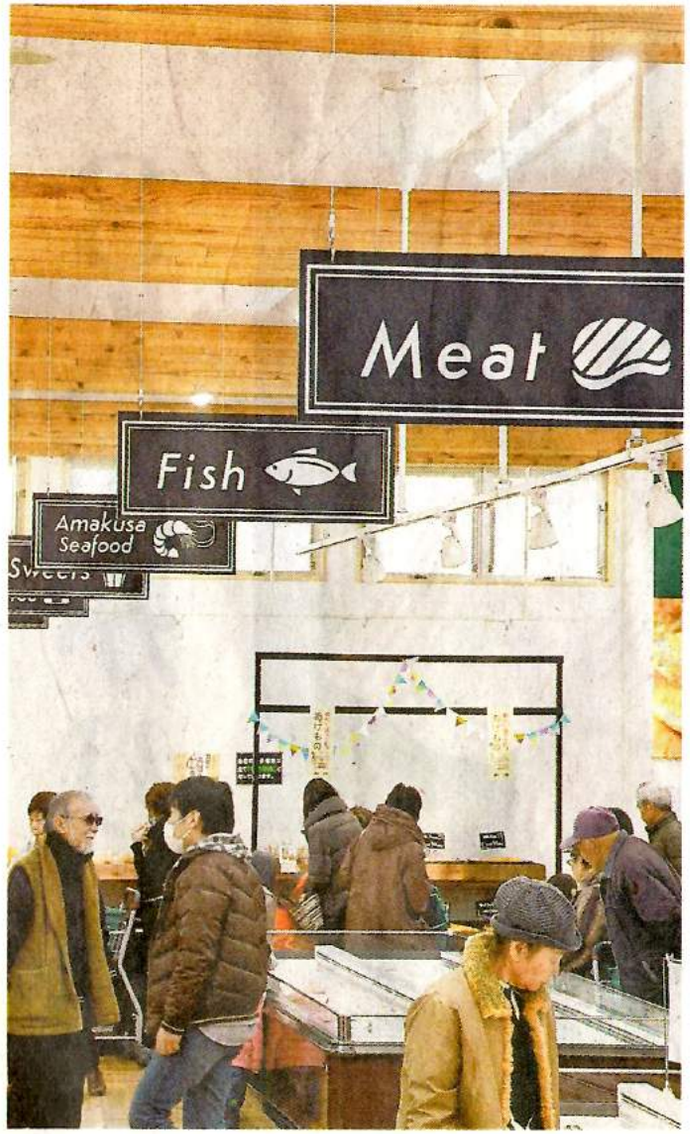
合志市に6日オープンした物産施設「ふるさと名物こうしマルシェ」の店内表示板やオリジナル商品のラベルデザインに、崇城大学芸術学部（熊本市西区）の学生たちのアイデアが生かされた。若者らしい洗練されたデザインで、売り場を引き立てている。

手掛けたのはデザイン学科3年の9人。同大と合志市の連携協定に基づき、施設を運営する市の外郭団体「クラッシーノこうし」が①生野菜につけるソースの商品名とラベル②野菜や鮮魚売り場の表示板―を依頼した。

ソースは「つけて健康、体にまる」というコンセプトから「つけまる」と名付けた。ラベルは昨年10月に学生が提案した4パターンから、クラッシーノが長所を取り入れて図案化した。

表示板はモノトーンで統一し、食材名の英語表記と、イラストで表す「ピクトグラム」を組み合わせた。開館初日に訪れた同大の大薗啓さん（21）は「皆のデザインが生かされていてうれしい」と喜んでいた。

（林田賢一郎）



英語とピクトグラムでデザインした、食材ごとの売り場の表示板＝合志市

野菜ソース「つけまる」のラベルなどを考えた崇城大の学生ら。机上の手前が実際の商品で、奥は試作品＝熊本市西区

2016年2月8日　熊本日日新聞　P.14